

平成 29 年度「学ぶ力」育成プログラム		学校番号：21012 学校名：日新小学校		
改訂のポイント		○新学習指導要領が示す資質能力を総合的に育むことを目指し、「進んで学ぶ力育成部」を校務分掌に位置付け、「研究部門」「研修・日常化部門」による創造的な取組が行われるようにしていく。		
項目名	項目内容	項目内容の具体		
目標	「学ぶ力」の育成に係る目指す子ども像	☆学校教育目標より「進んで学ぶ子」 ☆研究主題より「自ら学び たくましく生きる子どもの育成」		
や課題 「学ぶ力」に関する成果	学ぶ意欲	【昨年度の具体的な取組】 「自主学習」について、学年懇談やお便りで、具体的イメージをもてるようにした。	【成果】 ⇒自主学習の取組への理解が広まり、家庭からの働きかけも大きくなってきている。	【課題】 ◇低次の児童の取組を充実させるための方策が必要。
	思考力・判断力・表現力等	【昨年度の具体的な取組】 「書く活動」を重視し、ノートにまとめる力の向上を目指した指導を行った。	【成果】 ⇒「丁寧に書く」「見やすくまとめる」といった意識の高まりが見られた。	【課題】 ◇「書いて表現する力」（書き表す力）について更なる改善が必要。
	基礎的・基本的な知識及び技能	【昨年度の具体的な取組】 挑戦の場づくりとして「漢字検定」「算数検定」を本校会場で実施した。	【成果】 ⇒今年度「漢字検定」受験者258名、「算数検定」受験者166名	【課題】 ◇日常実践との有機的関連をどのように図るかが課題。
改善策（取組） 今年度の具体的な	取組の最重点	【取組の共有】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 「書く活動」から「書き表す活動」へ ～「読む力の向上」「自分の意見を明らかにする習慣」「未来に期待される力の育成」 </div>		
	A「子どもが自ら考え、判断し、表現する学習活動」の充実	○子ども自らが対話的な学びに取り組めるように、今後更に学習課題をより自分事となるように工夫していく必要がある。 ○多くの機会において、「キャッチコピー（フレーズ）を作る活動」を有効に取り入れるようにする。これにより、内容を深く掘り下げて理解しようとする態度を育てるとともに、自分なりの表現を豊かなものしていけるようにしていきたい。 ○班日記を利用して、思いを自由に表現する場を設けたり、写真や絵などを活用し視覚的に物語の場面構成のイメージをもてるようにした上で、文章化を図る活動につなげたりするなど、表現力向上の取組を今後検討していきたい。		
	B「自分への自信をもたせるきめ細かい指導」の充実	○授業の中で「振り返り」をどのように生かすかが重要であると考えている。「この時間（前時との違い・単元を通して）に何が分かったのか」を明確にし、自らの学びを価値付けたり、「この次の時間（次時・次単元・他教科・自主学習など）にどのような取組に臨みたいか」と新たな目標を具体的にもたせたりしていく。 ○パワーアップタイムを生かし、低次の子どもの知識・技能の確かな獲得を目指した取組を今後も大切にしていきたい。 ○低学年（1・2学年）が5校時で終了する日に、低学年担任が高学年サポート（4～6学年）に入ることにより、よりきめ細やかな指導体制を工夫していくようにする。⇒29年度より1時間を目安に実施。新指の意向を機に2時間を目安に実施。		
方法の検証	各種調査や子どもの自己評価指標の活用	○各教科等の評価規準に基づく学習状況評価結果の活用（日常のテストやノート、観察など） ○全国学力・学習状況調査や学校独自の調査結果（学校評価など）を活用 ○札幌市全体の共通指標（子どもの自己評価）の活用		